



熊本県沿岸域再生官民連携フォーラム

令和元年度事業計画及び予算

日時：令和元年10月3日(木) 午後2:00

会場：熊本県庁本館8階801会議室

目 次

<審議事項>

I. 令和元年度事業計画と予算	1
1. 基本方針	1
2. 情報共有と発信（広報活動）	1
3. 交流の場の提供	1
4. PT支援	2
5. 会員増への取り組み	3
6. 総会・企画運営委員会の実施	3
7. 予算	4

<報告事項>

II. 八代海湾奥環境改善・保全シナリオづくり 及び再生策検討プロジェクトチーム活動計画について	5
III. 活動PR戦略プロジェクトチーム活動計画について	6

＜審議事項＞

I. 令和元年度事業計画と予算

1. 基本方針

令和元年度事業計画は、企画運営委員会 3 回の開催、通常総会を開催します。また、3 年目に入った 2 つのプロジェクトチーム（以下「PT」と言います。）を支援します。さらに、目的を達成するための新たな PT の設置について検討し、必要に応じて設立に向けた準備を行います。

情報の受発信・交流（提供・仲介）・広報・メーリングリスト、ホームページ（以下「HP」と言います。）等を活用して、行政、大学、研究機関、水産関係、企業、レジャー、NPO/NGO 等関係者、市民間の情報発信・交流を行います。

2. 情報共有と発信（広報活動）

情報発信の基盤としてフォーラム HP（kumamoto-forum.com）を運用しています。引き続き、フォーラム活動経過を最新情報として順次掲載するとともに、企画運営委員会の議事概要、フォーラムの事業報告・活動経過、PT 活動経過等の情報提供を行っていきます。また、フォーラム会員個々の熊本県沿岸域再生に関係する活動の情報についても HP やメーリングリストにより情報提供を行います。

◆他団体の紹介ホームページ掲載中

あらたな団体紹介への取り組みを行う

◆その他

活動 PR 戦略 PT と連携した。イベント情報の発信を掲載する。

3. 交流の場の提供

地域間、分野間での活動をつなげる交流の場を提供し、熊本県沿岸域の再生を考える他の団体との連携を進めます。

(1) シンポジウムの開催

「八代海再生へのシナリオ」刊行を機に、以下のシンポジウムを企画運営委員会で開催しました。

テーマ：熊本県沿岸域再生の現状と展望

～研究集大成「八代海再生へのシナリオ」刊行の報告と討論会～

目的：長年の研究・調査成果に基づき取り纏めた「八代海再生へのシナリオ」の報告とともに、各種団体や行政機関等による沿岸域再生の取り組みを紹介し、熊本県沿岸域再生の現状の理解と今後への実効性のある方策を議論する。

日時：令和元年 8 月 19 日（月）12：30～17：00

場所：熊本県立劇場大会議室

共催：熊本県沿岸域再生官民連携フォーラム/NPO 法人みらい有明不知火/熊本県測量設計コンサルタント協会/熊本県港湾建設協会/熊本県漁港建設協会

実行委員会：熊本県沿岸域再生官民連携フォーラム企画運営委員会

内容：

開会 あいさつ

◆1部 刊行報告

「八代海再生へのシナリオ」刊行報告

◆2部 討論会：パネルディスカッション『熊本県沿岸域再生の現状と展望』

第1セッション 「海の再生への取り組み事例」

『環境省の役割』

『八代海及び有明海の再生に向けた熊本県の取り組み』

『海洋環境整備船「海輝」「海煌」の取り組みについて』

『球磨川河口域・汽水域におけるヨシ原の再生について』

◆有明海関係

『荒尾干潟の魅力を広げていくための取組』

『カニの胃袋から海洋プラスチックゴミの問題を考える』

◆八代海関係

『アマモ場造成に向けた農業気象学の役割～芦北高校林業科アマモ班との連携で始まる取組例』

『干潟生物調査を通じた環境教育と地域興し』

第2セッション 「パネルディスカッション」

コーディネーター

「シンポジウムのねらいと海の再生について」

熊本県沿岸域再生官民連携フォーラム顧問 古川恵太氏

パネリスト：滝川企画運営委員長・国土交通省熊本港湾空港整備事務所・環境省九州地方環境事務所・国土交通省八代河川国道事務所・熊本県環境立県推進課

○八代海関係

(株) アグリライト研究所代表取締役園山 芳充氏・ひのくにベントス研究所長森 敬介氏

○有明海関係

熊本県立岱志高等学校理科部・荒尾市環境保全課

(2)関係者が一体となったイベントの開催

シナリオ作成WGでは、以下の内容で交流の場を検討中です。

- ・イベントを開催している組織との共催の可能性の検討
- ・ワイズユース（事例：荒尾干潟や球磨川河口など）の視点からの取り組み
- ・イベント開催場の提供（熊本港湾空港整備事務所）

4. PT 支援

本年度は、3年目の活動に入った2つのPTの支援を行うとともに、フォーラムの目的を達成するための新たなPTの設置について検討し、必要に応じて設立に向けた準備を進めます。

◆活動中の PT

- ①八代海湾奥環境改善・保全シナリオづくり及び再生策検討プロジェクトチーム
- ②活動 PR 戦略プロジェクトチーム

◆検討中の PT

海域の再生を目指す将来の担い手を育成する目的で、「環境学習 PT（仮称）」を検討中

5. 会員増への取り組み

企画運営委員 22 委員（6 個人,16 団体）および、企画運営委員会議オブザーバー3 団体、で企画運営委員会を開催しています。これらの委員を含めて現時点では、個人会員：43 名、団体会員：30 団体（令和元年 9 月 1 日現在）となっています。さらに、フォーラム会員の募集を行い会員数の増加を目指します。

6. 総会・企画運営委員会の実施

企画運営委員会を 6 月、11 月、5 月の 3 回の開催を予定します。また、通常総会を、10 月に開催予定します。

7. 予算

熊本県沿岸域再生官民連携フォーラム

令和元年度事業予算書

【収入の部】

(単位:円)

科 目	R元年度予算	備 考
(1)協賛金		
(2)助成金	0	
(3)賛助金	700,000	
(4)雑収入	0	
(5)その他	150,000	シンポジウム共催費
(A)単年度収入合計	850,000	
(B)前年度繰越金	1,430,654	
(C)収入合計=(A)+(B)	2,280,654	

【支出の部】

科 目	R元年度予算	備 考
(1)フォーラム総会費用	50,000	会場費・印刷等
(2)PT活動費	300,000	会議会場・印刷・事務連絡費
(3)シンポジウム開催費	300,000	シンポジウム会場費・資料・交通費・その他
(4)事務局経費	200,000	
1)事務局運営費	72,000	HP運用費・事務用品など
2)旅費交通費	50,000	事例・情報収集・交流等に伴う移動
3)通信費	20,000	事務連絡等
3)印刷製本・消耗品費	50,000	会議資料等
4)雑費	8,000	予備費等
(D)単年度支出計	850,000	
(E)単年度収支差額=(A)-(D)	0	
(F)次年度繰越額=(C)-(D)	1,430,654	

Ⅱ. 八代海湾奥環境改善・保全シナリオづくり

及び再生策検討プロジェクトチーム活動計画について

川岸 PT 長

事業報告の PT 活動状況で報告したように、今年度は、「八代海再生へのシナリオ」を活用して、住民、関係者への周知及び共通認識の形成を進め、昨年度予定していた対策の方向性を検討していく予定である。

- ① 住民、関係者への周知については、本 PT の会議に留まらず、機会を積極的に作り、幅広く周知を図っていく。
- ② 八代海の再生への考え方についての共通認識を形成する。
- ③ 八代海湾奥の再生については、八代海湾奥の流域を中心として活動している NPO 等の団体、議会関係者との懇談の場を設け、なるべく多くの方との共通認識の形成を図っていく。
- ④ 八代海湾奥は、環境特性からみて球磨川からの影響も小さくないことから、対策の方向性の検討において八代海湾奥の流域の住民、関係者にも加わってもらいたいと考えており、問題点の共通認識形成の段階から声をかけていきたい。

Ⅲ. 活動 PR 戦略プロジェクトチーム活動計画について

上久保 PT 長

1. 活動 PR 戦略プロジェクトチーム（PRPT）の役割

- (1) 県民に有明海及び八代海の現状や課題の再認識を促し、フォーラムが目指す方向性や活動内容を広く周知するとともに、その理解並びに協力の推進を図る。
- (2) 上記活動テーマにかかる情報、地域の情報など、関連する情報を幅広く収集する。
- (3) 収集した情報は、各媒体による効果的手段によって、広く発信する。

2. PRPT のメンバー

- (1) PRPT の運営に必要なメンバーを組織し、効果的な発信手段を検討する。
- (2) 関連情報を収集し、分析・整理し、保存するとともに、関係機関との交流を通じて情報の発信に努める。

3. 活動計画

(1) 情報の収集

関連情報の積極的な収集に努める。

- ①有明海・八代海の水質、地域資源、地域振興、防災などの関連情報
- ②沿岸地域における環境学習、イベントなどの情報
- ③ほかの閉鎖性海域における再生の取組事例など
- ④その他関連情報

(2) 情報の発信

情報は、ニュースバリュー、ニュースソース、内容などに配慮しながら、適正なタイミングで発信する。

- ①ホームページによる発信
 - ・熊本県沿岸域再生官民連携フォーラム「<http://www.kumamoto-forum.com/>」
 - ・関係機関の WEB ページへの掲載
- ②新聞、テレビ、機関誌、市町広報誌などによる幅広いツールの活用
 - ・関係機関の協力を得て、幅広い報道の機会をつくることに努める。

(3) プロモーション活動

- ①全国アマモサミット 2019（宮城塩竈市）等のポスター展示に参加し、フォーラムの取り組みを紹介する。
- ②8月に開催されるシンポジウムに対しての Promotion を事務局と連携して実施する。